
星空ナルミ短編集

星空ナルミ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星空ナルミ短編集

【著者名】

ZZマーク

28710Y

【作者名】

星空ナルミ

【あらすじ】

季節をテーマにした短編集です。

他のテーマを決めて書くこともあるかも？

注意事項

はじめに

ここにちは、星空ナハル!!です。

作っちやった短編集

4つの季節をテーマに、その季節にいた女の子たち”の田線で書いてみました。

ページ数は短かつたり長かつたりとまちまち。

どの季節も同じじやね〜って言つのは禁則事項ですかね?

違う女の子です。

もう一度いいますが違う女の子です。

大事なことなのに一回書きました。

では、このくんにして次のページへどう。

(春 夏 秋 冬の順になつてます)

桜は儂い。春が過ぎたらすぐに散ってしまって、無くなってしまう。

だから、春はキライだ。

「ねえ！君ー」

「…はい？」

呼ばれて振り返るとステッキを来た青年が立っていてにじにじとして

いた。勧誘だつたら嫌だなと思い、私はスタスタと歩き出す。

「待つてよー」

「勧誘なら結構です！他を当たつてこい」

「待つてー」

同時に腕を掴まれて、抱きしめられる。

「なつ……なんなんですかー離し……」

「俺は、お前にずっと会っていたかったんだよーだから、いつして戻ってきた。」

「えつ……？」

怒るのも忘れて、私はきょとんとした顔で彼を見つめた。

「ただいま。ずっと待たせてごめんな？俺、この一年間、お前を迎えるに行く為に頑張ったんだ。やつとそれが終わってお前を迎えるに来れた……」

「…………ほんと……？」

「ああ、ほんと」

「ほんと子供みたいに笑う彼。一年前と同じ、笑顔。

こうして笑ったのを見たのは久しぶりで、外見は少し変わったもの

の、声はあの頃と同じで。

知らず知らずのうちに私は泣いていた。

泣くなよーなんて笑う彼は私を抱きしめた。

春は桜が散るからキレイ。だけど、あいつに会えたから、スキ。

卷之三

「水が？」

うんこ

「当たり前——冷たいし」

「アーティストの心」

一
絶対やだ

田の前ではしゃいでる、ボケの彼女。

ボクは海に入るよりも眺めているほうが好きだ。だから、彼女が引つ張つて行こうとしてもこうして、やだ、の一点張りをしている。

それが気にくわないのか、頬をふうつと膨らませて拗ねている。

「モー、なんで? 一緒に海行こうって言ったのは李羽でしょー?」

「そうだけど海に入るとほー一言も言つてないだろ」

……だから入らないって説うの！？」

「んー」

「ひどーーー。」

「どーせひでー男ですよーだ」

「なつ……もひーーー。」

李羽「……まつたぐ」

重い腰を上げて、彼女…南彌の元へ歩いて行く。歩くたびに水がパ
シャパシャと跳ねてかかる。

南彌「ふふふ、水かかっちゃひみみ? 李羽」

李羽「うつせえ、ちよつとだらーが」

南彌「ふふふ (笑)」

李羽「おりやつ (笑)」

南彌「冷たいーへへ」

李羽「文句言つたからお返しだ (笑)」

南彌「やだーつーえいつ (笑)」

バシャバシャと水を掛け合つたあと、ずぶ濡れになつたお互ひを見

て笑つた。

南彌「李羽?」

李羽「ん?」

南彌「大好き。」

李羽「ああ(微笑)」

また来年もこうして来たい。

南彌のはしゃぐ姿を見て、笑い合いたいな

金木犀・キンモクセイ・

私の名前は神無月 莉緒。

今、すぐ機嫌が悪い。なんでかつてここにせいで。

「つーおー」

「ハハ やー やつからなんなのー? 少しほ…」

「いれー」

渡された小さい包み紙を何気なく受け取る。

「… なに? れ」

「まあまあ開けてみなさいよ莉緒ちゃん」

言われた通り開けてみると、中には小さなくまのマスク Gott が入っていた。

「これ… 私が欲しいって言ひたやつ… 一ひとつ?」

「ひとつして… お前が欲しいって言ひてたの知つてたから… だからあざなきやつ」

照れくしゃみに笑う彼を見たら、この間にか私は泣いていた。

「おい…大丈夫か？莉緒！？」

「ひっく…大丈夫…つ…私…あなたが好きです…つ…」

「…俺も好きだ、莉緒。だから、付き合つて下さい」

「…つ…はい…」

二人を包むように辺りには金木犀の香りが漂つていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8710y/>

星空ナルミ短編集

2011年12月20日14時48分発行